

流通経済大学 学報

RKU Today

2022

「特集」海の日アートフェス開催レポート



流通経済大学

vol.43



海の日アートフェス

開催レポート

～みんなでつながる・あなたとつながる～



7月18日海の日には、本学新松戸キャンパスで、「海の日アートフェス」みんなとつながる・あなたとつながる」が開催されました。

このイベントは、「アート＝表現」をテーマに、大学内外の人たちが様々なアートを通じてつながろう、というものです。

今年度創設された「ダンス部」や、本学が支援する「障がい者チャアリーディング」のほか、「声のアート」「であうアート」「トイ&アート」と、この日に集ったプロジェクトを5つのアートと捉え、ステージパフォーマンスや取り組みの発表、展示などを行いました。

「誰一人取り残さない。コミュニティ（共有空間）を目指して」というキャッチフレーズの通り、アーティスト、学生、そして地域のみなさんが同じ空間を共有し、アートを楽しむ1日となりました。

学生、アーティスト、地域の方がアートでつながるイベント

03 特集

海の日アートフェス開催レポート

06 今年度リニューアル!

パワーアップした 就職キャリア支援センターへようこそ

08 学生ピックアップ

全国洋舞コンクール第1位 平塚達也さん (スポーツ健康科学部1年)

10 部活・サークル紹介

プロダンサー 西山友貴監督が指導 ダンス部

11 教職員紹介

鈴木理沙 准教授 / 貝森有祐 助教 / 吉川 徹 准教授

12

後援会報告

14 付属柏高等学校ニュース

生徒が楽しいと実感できる学校を目指して

15

NEWS & TOPICS

第16回青春祭開催 / TBS『バース・デイ』がサッカー部に密着 / 経済学部八木ゼミから書籍出版 / 「サッカー日本一」を決めるイベントを学生がサポート / 硬式野球部が春季リーグ優勝 / 大沢袖月さん女子ハンマー投げ2位 / スポーツ健康科学部「海浜実習」実施



展示会場のワークショップでは、来場した子どもたちがおもちゃのアート化を体験



トイ&アート

TOY

使わなくなったおもちゃがアートになることで、ゴミとして環境破壊の要因とならないようにする取り組み

OTHERS

ステージパフォーマンス



吹奏楽部の演奏に乗せて出演者たちが再登壇し、ステージプログラムのエンディングを飾った

特別チャリティ展

「ウクライナの人々と友たち」

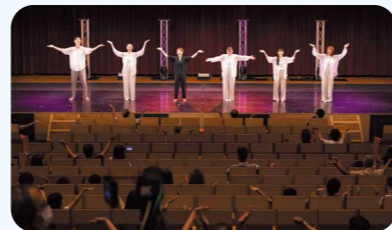


ウクライナ支援のため、趣旨に賛同した国内外のアーティストによる作品が展示、販売された ※7月24日まで開催

DANCE



ダンス部によるパフォーマンス。ダンサーたちの個性や普段の楽しげな様子がのびのびと表現された



来場者も座ったままで「すわりダンス」に挑戦（写真右）。西山監督即興による圧倒的パフォーマンス（写真左）

その他	時間	障がい者 チアリーディング	声のアート	であうアート	トイ&アート	ダンス部	
	10:00	↑					
	10:30	体験会	TBS 皆川玲奈 アナウンサーによる 読み聞かせ教室	↑	↑	↑	
	11:00			作品 展	ランタン作り	写真展	
	11:30						
キッチンカー ウクライナ チャリティ 展	12:00	5つのアートステージショー @講堂					
	12:30	ACT1: 障がい者チアリーディング ACT2: 声のアート コラボパフォーマンス ACT3: であうアート 生活工房紹介 ACT4: トイ&アート 取り組み紹介 ACT5: ダンス部によるパフォーマンス					
	13:00						
	13:30						
	14:00	パネル 展	元NHK 「おはよう日本」 キャスター 星野豊さん による 読み聞かせ教室	↑	↑		
	14:30			みんな で描こう！ であう アート	↑		
	15:00				みんなで 作ろう！ トイ&アート		
	15:30						

TIME TABLE

当日のタイムテーブルは、新松戸キャンパス1号館・2号館各所の展示やワークショップと、講堂で行われた5つのアートそれぞれのACTが立体的に連動し、さながらアートのプラットホームとも呼べるような展開となりました。

併設されたウクライナ支援のアート作品即売会やキッチンカーも好評を博し、多くの方にご来場いただきました。

展示とイベントプログラムが
交差するアートのプラットホーム

障がい者チアリーディング



2号館体育館で行われた、東京都知的障害者チアリーディングクラブ「コーディアルズ」の練習と、障がい者チアリーディングの体験会

ステージショーでは楽しそうに踊る姿に「障がい者にも届くスポーツ」を実感。体験会に参加した子供たちも登場した

CHEER
LEADING

VOICE 声のアート



TBS皆川玲奈アナの「枕草子」朗読と、社会学部1年の力石朝日さんのボイス・パーカッションのコラボ。新たなアートが生まれた瞬間



皆川アナの読み聞かせは、子どもとの対話が盛んになされた



元NHKキャスター星野豊さんによる読み聞かせ教室



MEET であうアート

障がい者アーティストによる作品の展示。力強い造形と繊細な表現、弾けるような色彩が印象的だった

支援施設「生活工房」のアーティストを定期訪問している学生による発表



企画立案・龍崎副学長からのコメント

アートをつなぐりと捉え、様々な取り組みを始めて1年。ようやく芽が出始めた状態ですが、それぞれの活動報告をイベントとして企画・開催してみようと思いました。学内・学外の人

たちが一つの会場で共通の時間を過ごすことで、さらなるつながりが生まれたような気がします。市民の方々も多く来場していただき、最初の一步をしっかりと踏み出すことができました。

パワーアップした 就職キャリア 支援センターへ ようこそ

2022年4月、「就職支援センター」が「就職キャリア支援センター」と名称を改め、さらにパワーアップしました。就職支援にとどまらず、学生一人ひとりの生き方までをともに見つめる新生「就職キャリア支援センター」をご紹介します。



「就職キャリア支援センター」という名称に込めた想い

多様性の時代といわれる今、働き方も例外ではありません。働き方改革、ワークライフバランスといった言葉が浸透し、一人ひとりが個々の価値観で自分の人生を輝かせるべく、働き方を選択できる時代が到来しています。

そんな時代の価値観を汲み、本学の就職支援も学生一人ひとりの人生に寄り添ったものにしていきたいという想いをこめて「就職キャリア支援センター」と名称変更しました。就職だけでなく、生き方や人生も含めた「キャリア」を応援します。

就職活動は面接のやり方やエントリーシートの書き方などに意識が向きがちですが、それはテクニクにすぎません。人生全体を俯瞰して眺め、自分はどうのように生きていきたいのか、自分を活かす生き方とはどんなものなのかを考えることがもつとも大切。「就職



学生一人ひとりの人生に寄り添う取り組み

「就職の流経」と呼ばれ、従来よりキャリア教育に力を入れてきた本学。2021年4月からは1年生にキャリアデザイン1の授業を必須にしました。授業では「適性診断マッチプラス」というマイナビのキャリアデザインツールを用いた自己分析を行います。この自己分析はこれまで就職支援の1環として3年生に行ってきたもの。同じテストを1年次と3年次の2回受けることで、自分の成長や伸びしろをより深く知ることができるようになります。さらに就職キャリア支援センターが授業での分析結果を共有し、連動することで、就職相談の際、より一人ひとりに合ったアドバイスを行うことができるようになりました。



事務取扱時間 月～金 9:00～17:00
 ※相談希望の方は、
 Ring→就職キャリア支援センター→面談予約・求人検索NAVI
 →個人(グループ)面談予約 から予約の申し込みをしてください。

また年間を通して多様な就職支援プログラムが用意されています。SDGsに関する勉強会やワークショップなども実施し、社会への第1歩として、自分の学部・学

科以外の学生や教職員と交流し、視野を広げる場を提供。学内で様々な経験をして、学外に飛び出す自信を養ってほしいと考えています。

さらに新松戸キャンパスの就職キャリア支援センターは1号館1階から2階に移転し、より学生が利用するスペースを拡張しました。就職相談は予約制ですが、出入りは自由。資料を閲覧するもよし、パソコンで情報収集するもよし。就職相談に來ている学生の姿を見るだけでも良い刺激になるので、学年を問わず気軽に立ち寄ってほしいです。

人生の相談は キャリアアドバイザーへ

人生に寄り添うという「就職キャリア支援センター」の大切な役割を主に担っているキャリアアドバイザーも増員。新松戸キャンパス2名、龍ヶ崎キャンパス1名の体制で学生を支えます。

キャリアアドバイザーは国家資格であるキャリアコンサルティング技能士等の資格を持ち、自らの経験だけでなく理論的な知識をベースに、学生一人ひとりの状態を把握し、丁寧にアドバイスをしています。

ネットを検索すれば様々な情報があふれ、自分に必要な情報を取捨選択することが難しい今、情報に惑わされ、本当に自分がやりたいことや追いたいものを見失いがち。さらにコロナ禍によって極端に人との接触が減った時期を過ごしたことで、就職以前にコミュニケーションに不安を感じている学生も少なくありません。

就職に直結しなくても大丈夫。進路に不安や悩みがあるとき、これからのことを考えてみたいと思ったり、自分の気持ちを整理してみたいと思ったとき、就職キャリア支援センターを訪れ、気軽にキャリアアドバイザーに相談してみてください。



私たちが待っています!



右から高橋センター長
 「就職キャリア支援センターが皆さんの人生を応援します」
 北村さん「実体験が大事。私たちが背中を押します」
 西原さん「怒らないから気軽に相談してください(笑)」
 須賀さん「大学での様々な経験を通して、自分と向きあって!」

PICK UP STUDENTS

学生ピックアップ

vol.04

スポーツ健康科学部1年
平塚達也さん



週に5日、2時間以上のレッスンを欠かさない。現在は9月3~4日開催の公演に向けて練習に励む。「先生からもっと筋トレして!と言われています(笑)」



●平塚達也 / Tatsuya Hiratsuka
2003年、静岡県焼津市生まれ。
2022年、第35回「こうべ全国洋舞コンクール」モダンダンス部門(シニア)第1位。

Tatsuya Hiratsuka

モダンダンスの新しい舞台が待っている!

「自信を持って踊れた」

今年5月、全国の若手舞踊家の登竜門ともいわれる「こうべ全国洋舞コンクール(第35回)」で、1年生の平塚達也さんがモダンダンス部門(シニアカテゴリ)の第1位を獲得した。

平塚さんにとって昨年はジュニアカテゴリ最後の年だった。それまで最高位が2位だった大会だけに、入念な準備をしていたが、新型コロナ禍のため開催が休止に。今年はシニアカテゴリへの初エントリーとなり、そこで念願の1位を獲得できたのだ。

「踊り終わった後の感覚は、『自信をもって踊れた』というものでした。でも、1位を受賞できるとは本当に思っていなかったです。シニアは自分のダンススタイルを確立している先輩方がたくさんいて、出場するだけでも勉強になりましたし、視野が広がったように思います」

ジュニア時代の総決算は、奇しくも新しいステージへの挑戦に姿を変えた。不安を抱えながらも、満足できる踊りになったことが、第1位という結果よりも嬉しかったようだ。



いま、新たなスイッチが入った

平塚さんは母親の影響で、2歳からダンスを始めた。

「水泳や空手などの習い事もしていました。一つひとつの振りができるようになっていく楽しさ、いろいろなテーマで自由に踊る楽しさがある。モダンダンスは、僕に合っていたのかもしれない」

話をすることは得意ではないという平塚さん。その内側にある情熱を表現するためには、ダンスという形が必要だったのだろう。

高校卒業まで途切れることなくダンスに打ち込んできた生活は、今年の春から本学ダンス部に参加することで、新しい局面を迎えた。



「顧問の宗宮先生や監督の西山先生に出会ったことで表現の幅、ダンスでのポキキャブラーが広がったと思います。自身から生まれる表現の部分を伸ばしつつ、技術も磨き直していききたいです」

環境が変わったことで得られたのは、新しい指導者だけではないそうだ。

「ダンス部での活動は、楽しいですね!メンバーが明るくてキラキラしているんです。僕が教えることもあるけれど、それよりも僕がみんなから学ぶことの方が多い。新しくスイッチが入ったような気がする毎日です」



[スポーツ健康科学部]
吉川 徹 准教授
Toru Yoshikawa

学生と共に成長し続けたい

2018年4月に着任し、今年度で5年目になりました。体カトレーニング論などの授業を担当し、男子バレーボール部の監督も務めています。大学4年生だった10年前、卒業論文をご指導いただいたのは、当時筑波大でポストドク研究員だった膳法先生（現スポーツ健康科学部准教授）です。自分で書いたのは句読点だけと言えるくらい丁寧に添削してくださいました。ちなみに、膳法先生は、私が部活に打ち込んで丸刈りだった頃を知っています。大学院に進学してからは、勉強会等で大槻先生（同教授）からもご指導いただきました。セミナーに参加した際は、ジョークを交えながら聴衆を引き込む話術・ユーモアセンスに魅了されたことを覚えています。また、私の後に着任された諏訪部先生（同助教）と西田先生（同助教）は、お互い大学院生のときから知る間柄です。当時も今も、公私ともにお世話になっている先輩方です。そんなわけで、スポーツ健康科学部の教員として、私はまだ一番下っ端の存在です。学生に教えながら、私自身が多くを学んでいる最中です。これからも、学生と共に成長し続けたいと思っています。



[法学部]
貝森有祐 助教
Yusuke Kaimori

「当たり前すぎること」に向き合う面白さと難しさ

私の専門は言語学（特に認知言語学）です。英語の構文、また最近では日本語のネットスラングなどに見られる新規表現に興味を持っています。言語学の魅力の一つは、「当たり前すぎて普段考えもしないこと」に向き合い、身近な不思議を発見できる点にあると思っています。授業ではこのような魅力を伝えていけるよう心がけています。例えば、「か」や「さ」を発音するときの口や舌の動かし方、「てんぷら」と「てんかい」における「ん」の発音方法が実は違うこと。日本語を毎日話していても、このようなことを意識したことがない人も多いのではないのでしょうか。英語の授業では日本語の発音にも触れることで、「無意識的にこんな風に発音していたのか!」という気づきを体験してもらいたいと思っています。また、「愛」「恋」「恋愛」とはそれぞれどのような意味でしょうか。日常的に使う単語であっても、いざ意味を説明するよう求められるとなかなか難しいものです。担当している演習科目では、言葉そのものにじっくり向き合い、言葉の面白さや難しさについて一緒に考えています。言葉という身近な不思議を学ぶことが、新しい視点を得る一助となれば嬉しいです。



[流通情報学部]
鈴木理沙 准教授
Lisa Suzuki

ロジスティクスの視点から実社会が抱える問題を検討する

私たちの生活を支え、企業の経済活動を維持していくためには、流通におけるモノと情報の流れが滞ることなく、スムーズに流れている必要があります。私の専門とするロジスティクスは、『商品や貨物を、ムダがないように効率よく生産したり、運んだり、保管すること』を指します。主として担当する「ロジスティクス管理論」の授業では、ロジスティクスに関わる“荷主（製造業と卸小売業）、物流事業者（運輸業者と倉庫業者）、金融保険業等に共通して役立つ知識”を学びます。具体的には物流やロジスティクスを対象に、その概念や定義、物流システムおよび物流コスト管理、政策と法規等を学ぶ事で企業の経済活動において必要不可欠な“物流とロジスティクスに関する基本的な知識”と、“実務のノウハウ”の修得を目指します。研究について、これまで“船会社や港湾管理者、荷主の物流費用等を考慮した海上輸送中のCO2排出量削減策の検討”や、“災害時の円滑な支援物資供給のために必要な情報に関する検討”を行ってきました。今後もロジスティクスの視点から実社会が抱える問題を明らかにし、解決するための対策について検討していきたいと考えています。

部活・サークル紹介

CLUB ACTIVITIES



ダンス部



ダンス部の最新情報は
オフィシャルwebや
インスタでも!



Instagram



オフィシャルweb

「毎回、新しい発見のある部活にしよう!」ダンス部・西山友貴監督のモットーです。プロダンサーの西山監督を招いて今年4月に始動したダンス部は、コンテンポラリーダンス/創作ダンスを主とし、従来の大学ダンス部の形にとらわれず、部員一人ひとりの個性を大切に、踊ることを楽しみながら、新松戸と龍ヶ崎の両キャンパスで活動しています。現在の部員は、学部も国籍もダンス歴も実に様々。チア、ガールズヒップホップ、バレエ、中国舞踊、朝鮮舞踊経験者など多彩なメンバーが集まり、ダンス活動を通して互いに刺激し合い、互いの“個”を認め合いながら、自分への理解を深めています。

西山監督は「ダンスは時代性を映し出すもの。今、自分たちが感じていることを、ダンスを通して表現できるようになってほしい。ダンス歴は関係ありません。表現することに興味がある人はぜひ体験しにきてください!」と満面の笑顔。将来的には国内トップレベルの身体表現を追求可能な部活を目指すRKUダンス部。流通経済大学に新しい風が吹こうとしています。

- ダンス部はアートフェスにも参加しました! (→P.5)
- 学生ピックアップで部員の平塚さんを紹介しています! (→P.8)

	活動日	時間	活動場所
新松戸	土	10:30~12:30	2号館体育館
龍ヶ崎	月・木・金	18:00~20:00	澤村記念館
学外	火(第1、3、5)	18:00~20:00	TWO STEP DANCE STUDIO (南流山駅)
	火(第2、4)	17:30~19:30	



2022年度収支予算書

自 2022年4月1日 至 2023年3月31日

(金額単位:千円)

項目	予算	摘要
前年度からの繰越	44,154	
前渡金回収	0	
収入の部		
当年度収入		
入会金	5,750	入学者1,150名 (外国人留学生・編入学生含)
会費収入	55,684	
計	61,434	
収入合計(A)	105,588	
運営活動費		
通信費	1,000	後援会資料・保護者ポータル通知ハガキ郵送料等
印刷費	1,000	後援会資料印刷、保護者ポータル通知ハガキ作成
会議費	200	
事務費	5,000	
父母懇談会費	1,100	案内状・配付資料作成、動画配信・録画費用
雑費	150	
小計	8,450	
後援費		
諸行事後援費	10,000	卒業記念品、学生イベント等の補助
小計	10,000	
支出の部		
就職活動費		
求人開拓費	20	求人のための費用
就職指導費	9,000	企業説明会費用、学生・保護者配布資料作成、適性検査・就職模擬試験・エントリーシート攻略テスト受験料
小計	9,020	
課外活動振興費		
課外活動補助費	9,000	スポーツ傷害保険料、課外活動備品等
大学祭・体育祭補助費	1,600	大学祭への援助
クラブ顧問補助費	22,000	遠征、合宿等の旅費等の補助
小計	32,600	
環境整備寄付金	2,000	
前渡金支出	0	
支出合計(B)	62,070	
翌年度へ繰越(A-B)	43,518	

2022年後援会役員

2022年度の役員が決定しました。

会 長	佐久間 行雄
副会長	風見 順一
監 事	野村 浩一

2022年度事業計画

2022年度は、本後援会の目的(会則第3条)及び事業(第5条)にそって、次に掲げる事業を推進していくものとする。

1 後援会会員(父母)と大学との連携

- 父母懇談会の実施に伴う諸費用の援助
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインにて実施

- 保護者ポータルサイトの構築
授業情報や各種お知らせを父母に提供するためのシステム構築費用を負担

2 就職活動への援助

- 求人開拓・就職指導に対する援助
- 適性検査・就職模擬試験・エントリーシート攻略テスト受験料の全額負担

3 課外活動に対する援助

- 文化系・運動系クラブに対する援助
- 課外活動関係設備を充実するための援助
- 課外活動傷害保険料の全額負担

4 諸行事への援助

- 学生が開催する大学祭等の行事に対する援助
- 卒業生に対する卒業記念品の贈呈等

5 後援会奨学金の貸与

家計急変等により学業継続が困難となった学生に大学と協力し、後援会奨学金を貸与

6 その他

環境整備への援助 以上

2021年度収支決算書

自 2021年4月1日 至 2022年3月31日

(金額単位:円)

項目	予算(a)	実績(b)	増減(a-b)	備考
前年度からの繰越	24,874,708	24,874,708	0	
前渡金回収	3,000,000	3,000,000	0	
収入の部				
当年度収入				
入会金	6,525,000	6,415,000	110,000	入学者1,299名 (外国人留学生・編入学生含)
会費収入	62,125,000	61,235,000	890,000	
利息収入	0	898	△ 898	預金利息
計	68,650,000	67,650,898	999,102	
収入合計(A)	96,524,708	95,525,606	999,102	
運営活動費				
通信費	2,100,000	816,034	1,283,966	資料、保護者ポータル通知ハガキ郵送料等
印刷費	1,100,000	692,823	407,177	資料、保護者ポータル通知ハガキ印刷費等
会議費	200,000	0	200,000	
事務費	5,000,000	4,910,000	90,000	
父母懇談会費	4,050,000	563,040	3,486,960	
雑費	150,000	86,566	63,434	振込手数料他
小計	12,600,000	7,068,463	5,531,537	
後援費				
諸行事後援費	17,000,000	12,352,920	4,647,080	卒業記念品代、旅する絵ギャラリー展費用、抗菌ゲート等
小計	17,000,000	12,352,920	4,647,080	
就職活動費				
求人開拓費	150,000	8,378	141,622	
就職指導費	9,000,000	7,739,731	1,260,269	学内合同企業説明会費用、就職適性検査・就職実践模擬試験受験料等
小計	9,150,000	7,748,109	1,401,891	
課外活動振興費				
課外活動補助費	9,000,000	7,571,424	1,428,576	スポーツ傷害保険料、課外活動備品購入、体温検知器購入
大学祭・体育祭補助費	1,600,000	0	1,600,000	
クラブ顧問補助費	22,000,000	14,631,045	7,368,955	遠征、合宿等の旅費等の補助
小計	32,600,000	22,202,469	10,397,531	
環境整備寄付金	2,000,000	2,000,000	0	
前渡金支出	2,000,000	0	2,000,000	
支出合計(B)	75,350,000	51,371,961	23,978,039	
翌年度へ繰越(A-B)	21,174,708	44,153,645	△ 22,978,937	

財産目録 (2022年3月31日 現在)

(金額単位:円)

項目	金額	摘要
(一般資金)		
現金	242,325	手許残高
預金(常陽銀行 竜崎支店)	43,911,320	期末残高
小計	44,153,645	
(育英資金)		
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	15,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	35,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	5,000,000	育英基金果実
普通預金 奨学金口(常陽銀行竜崎支店)	4,873,593	育英基金果実
育英基金貸付金	1,914,000	4名
小計	91,787,593	
合計	135,941,238	
負債の部	0	
差引正味財産	135,941,238	

監査報告書

流通経済大学後援会会則第10条第3項の規定により、2021年度流通経済大学後援会収支決算について諸帳簿を監査した結果、その内容についてはいずれも正当なもの認め、第13条の規定により報告いたします。

2022年3月28日

監事 風見順一
監事 佐久間行雄

後援会報告

本学在学生の父母で構成される後援会は、大学と各家庭との連携を深め、本学の発展・向上を図るために各種事業を行っています。

2021年度事業報告

2021年度の事業計画にもとづいて、次のとおり後援会の事業を実施した。

1 後援会会員(父母)と大学との連携

- 父母懇談会の開催状況
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインにて開催した。

2 就職活動への援助

後援会発足以来の重点施策の一つである大学の就職指導に全面的に協力し、学生用・保護者用就職ガイド(冊子)の作成、就職適性検査・就職実践模擬試験・エントリーシート攻略テストの受験料、学内合同企業説明会(オンライン)の運営費用を負担した。

3 課外活動等に対する援助

- 大学の課外活動振興が円滑に推進できるよう、文化系・運動系クラブの試合遠征や合宿等の費用を援助した。
- 課外活動関係の設備・環境を充実するために、新型コロナウイルス感染対策のための体温検知器等の購入費用を負担した。
- 課外活動傷害保険料を全額負担した。

4 諸行事への援助

- 卒業生に対し卒業記念品を贈呈した。

5 その他

環境整備への援助をした。

以上

「サッカー日本一」を決める イベントを学生がサポート

4

第16回青春祭開催

1

2022年5月3日から5日にかけて行われた小学生のサッカー日本一を決める全国大会に、社会学部の学生17人、スポーツ健康科学部の学生5人の計22名が参加し、大会運営の補助やスポーツ紙のための写真撮影、コメント取材などに挑戦しました。期間中は日刊スポーツ新聞社の取材デスクや運営担当者などから随時指導を受け、大会にまつわる様々な「表と裏」の作業を担いました。



2022年6月25日から26日にかけて、新松戸キャンパスで第16回青春祭が開催されました。コロナ禍で、飲食の模擬店が出店できないなど制限がありましたが、ゼミやクラブ・サークルの発表やお笑いライブ、音楽ライブ、お化け屋敷などで盛り上がり、たくさんの方々にご来場いただきました。



硬式野球部が 春季リーグ優勝

5

硬式野球部が、東京新大学野球連盟1部で、2季連続32回目の優勝を飾りました。第71回全日本大学野球選手権大会には7年ぶり14回目の出場となります。



TBS『バース・デイ』が サッカー部に密着

2

2022年6月11日、TBSの番組『バース・デイ』がサッカー部に密着取材したドキュメンタリーが放映されました。『バース・デイ』は、夢を抱き、挑戦し、過酷な現実と向き合う主人公たちの“忘れられない大切な一日”、“新しい自分に生まれ変わる瞬間”を追う番組です。部員たちの雄姿を捉えた胸に迫るドキュメンタリーとなりました。



大沢柚月さん 女子ハンマー投げ2位

6

2022年6月9日から12日にかけて実施された第38回U20日本陸上競技選手権大会の女子ハンマー投げにおいて、スポーツ健康科学部2年生の大沢柚月さんが54m26cmの自己ベストを記録し、第2位になりました。



スポーツ健康科学部 「海浜実習」実施

7

スポーツ健康科学部恒例の海浜実習が、国立公園に指定されている沖縄県渡嘉敷島で行われました。必修科目である本授業は、遠泳などのプログラムと異なり、将来、自分自身がどのように水辺活動に関わることができるか、さらに指導者の立場としてどのように安全なプログラムを展開するのかなど、大学卒業後も水辺活動に関わるライフスタイルを創造するもので、毎年約300人以上の学生が履修しています。



経済学部八木ゼミから 書籍出版

3

経済学部経営学科・八木ゼミ(新松戸キャンパス 3年生17名)が執筆した『スポーツ起業で、社会を動かす—大学生が起業家に聞いた、スポーツで社会を変える方法—』が、2022年6月24日に出版されました。本書は2021年4月にスタートした「大学生による起業家インタビュー本出版プロジェクト」が結実したものです。



詳しくはこちら▶



RKU Today

付属柏高等学校ニュース Kashiwa

RKU Kashiwa
High School
NEWS

生徒が楽しいと実感できる学校を目指して

4月1日付で校長に着任しました柴田一浩です。生徒にとって付属高校がさらに楽しい学校となるようにしたいと思っています。流通経済大学の教員を兼任していますので、総合的な探究の時間等での大学教員の参画や流大生との交流、大学施設の利活用の促進など大学の資源を最大限活用できるようにしたいと考えています。

学校生活をさらに楽しくするためには、「言葉を大切にすること」「聞く力を高める」ことで、「コミュニケーション能力を高めること」が大事です。そうすることにより、他者との対話の中で新しい自分を発見することが期待できるからです。また、生徒が自己肯定感を味わうことができる機会を創出することも大事だと考えます。コロナ禍で、ここ2年間は学校行事などを縮小して実施してきましたが、今年の体育祭は3年生の保護者をお迎えし、生徒たちの姿をご覧くださいました。学園祭である流輝祭も来場者を迎える方

向で検討しています。こうした機会をつくってまいりますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、いよいよ2023年4月に開校する付属柏中学校(認可申請中)の準備が着々と進んでいます。中学校校舎に加えて、高校との共用施設である「図書・メディア棟」も建設しています。「未来を創造する叡智を養い、自己実現を図ることでグローバルリーダーを育成する」ことを教育目標に掲げるとともに、探求・創造・協働による「学び合い」を通して様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることのできる人材を育成することなどを重点目標としています。中学と高校の緊密な連携を図り、新たな中高一貫校としての豊かな教育を推進してまいります。

詳しくは、流通経済大学付属柏高校のホームページに掲載しています。
<https://www.ryukei.ed.jp/>



建設中の中学校校舎



6月に体育祭を開催

2022年度2学期「全国大会出場」部活動紹介

- 放送部 ———— 第69回NHK杯全国高校放送コンテスト「アナウンス部門」に出場
- 駅伝部 ———— 第75回全国高校総合体育大会(インターハイ)陸上競技 男子1500m、男子3000m障害に出場
- 男子ラグビー部 ———— 第9回全国高校7人制ラグビーフットボール大会出場
※8大会連続 ※15人制は、関東高校ラグビーフットボール大会Aブロックで優勝





・世界陸上日本代表 ・東アジア大会金メダリスト
ハンマー投げ日本歴代3位

土井宏昭の「食生活」

(龍ヶ崎キャンパス 教務課)

2016年に引退し、現在は本学で職員をしています。現役時代の食事のモットーは「食べたいものを食べる」。とはいえハンマー投げは体づくりが重要なので、必ず毎食たんぱく質を摂ることは意識していました。補食のこだわりは特になく、体重を気にして「食べなければ!」と言う感覚で食事を摂ったことはありません。体重が重いほど有利なスポーツと思われがちですが、過剰摂取すると体が重くて動きづらくなります。そういう時は食事量を減らして調節したり、その時々で自身の競技活動に必要な十分な最低限のものを食べていた感じです。拮抗するトップレベルの戦いを制するためには、技術力も重要です。自分の体をどのように使ったらハンマーをより遠くに飛ばせるのか、閃きを大切にしながら、それを神経が覚えてくれるまで反復練習して技術を習得します。トップアスリートたちは鍛えあげた体で、いつでも最大限発揮できる技術を身につけているから、コンディションの良し悪しに関わらず、競技会で一定以上のパフォーマンスが出せるのです。

現役時代は
身長180cm
体重123kgでした!



食プロジェクト担当の
先生から
ひとこと



トップアスリートならではの体づくりやトレーニングへのこだわりがうかがい知れるインタビューとなりました。特に「増量がメインになりがちなハンマー投げ競技生活で、パフォーマンス向上のために減量コントロールをしたこともある」というお話は興味深いですね。体がある程度できてきて、かつ基本動作を覚えてきたアスリートには、さらに自身の体をコントロールしやすくし、高みに持って行くための食生活改善が必要、ということに改めて気づかされたエピソードでした。

※本記事は、食=SHOKUプロジェクトの一環として、スポーツ健康科学部の学生たちが土井宏昭さんに行ったインタビューのレポートを編集したものです。

食=SHOKU
プロジェクト
オフィシャルWEB



土井宏昭さん
インタビュー
レポート



編集後記 「猛暑のなかで」

- 2022年の梅雨は、あっというまに終わった。観測史上、最短とのことである。このような異常気象を目の前にしたとき、私たちは何ができるのだろうか。ただ呆然とするしかないのだろうか。
- 本学は、こうした昨今の気候問題に向き合うために、これまで様々な取り組みを進めてきた。今年の3月には、地球環境について考えるためのワークショップ「トイとアート」が開催された。幸いにも好評を得ることができたため、本ワークショップは、その後、6月の学園祭、7

月のアートフェスでも大々的に実施された。本イベントの詳細については、ぜひ本誌掲載のレポートをお読みいただきたい。

- 世界は今、異常気象に見舞われ、危機的な状況に陥っている。しかし、国や自治体や企業、そして私たち一人ひとりの意識が変わっていけば、気候変動のペースを弱めていくことができる。私たちは、万策尽きたわけではない。できることは、まだまだある。本学は今後も、環境問題に向き合うイベント等を積極的に開催していく予定である。

RKU 流通経済大学

学報 **RKU Today** vol.43 2022年8月発行
編集・発行/学校法人日通学園 流通経済大学 学長室
千葉県松戸市新松戸3-2-1 〒270-8555 gcs@rku.ac.jp

